

提出金名：国際農業研究機関提出金

国際機関名	国際昆虫生理生態センター (略称) ICIPE					
種 別	国連本体		国連専門機関		○その他	
所轄官庁担当局課名	農林水産省技術会議事務局国際研究課					
最近3年間の我が国支払額及び提出率、ODA率						
	金 額				提出率(%) (注)	ODA率(%)
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千ドル)	外貨2	レ ー ト		
平成14年度	22,593	185,183		1\$ = 122円	(2002年)	100
平成13年度	24,669	230,544		1\$ = 107円	(2001年)	100
平成12年度	24,208	230,544		1\$ = 105円	(2000年)	100
提出上位5ヶ国						
	国 名		率(%)		左の率及び順位は 2001年のもの	
1位	オランダ		16.4			
2位	国連国際農業開発基金(IFAD)		13.2			
3位	スイス		8.9			
4位	スウェーデン		8.1			
5位	ドイツ		6.9			
当該機関に対する我が国としての評価(当該機関の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)						
ICIPEは、応用昆虫学、持続的害虫防除技術開発、有益昆虫利用に関する開発途上地域唯一の国際研究機関であり、アフリカ有数の国際研究機関である。また、研究者研修・地域農民教育等の人材育成・技術普及活動においても重要な役割を果たしている。 本研究所と農林水産省との共同研究「アフリカにおける主要病害虫の生物的・生態的防除技術の開発」についても、アフリカ地域の持続的可能な農業の発展に大きく貢献するものと期待している。						
合理化、機能強化のための改革が行われているか。 行われている場合はその現状と我が国としての評価						
研究機能の強化のために継続的に改革が行われていると理解している。						
邦人職員数 うち幹部以上	2 人 うち 0 人		当該機関の職員数及び 邦人職員が職員全体にし める率		約300人 約0.7%	
邦人職員が占めている幹部ポスト						
ポストの名称(ランク)		職 員 氏 名		備 考		
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画						
平成12年から本提出事業の中でJIRCASより専門家を1名派遣しているほか、日本学術振興会が研究者を毎年1名ICIPEに派遣している。						

(注) 我が国と各国とは会計年度が異なるため、提出率については暦年(2000年～2002年)。